

福祉関係者は

## 「集団的自衛権行使」に断固反対する

安倍政権はとうとう「集団的自衛権行使」容認への舵を切った。いわば安倍首相の「悲願」だった。というよりも「自主憲法制定」を目的に結党された自民党（ちなみに安倍首相の祖父岸信介氏は第3代総裁）の宿願であったというべきだろう。

「日本を取り戻そう」というスローガンを掲げて安倍政権は数を持んで復古的政策を押し通してきた。その姿は戦後の70年近くの殆どを、一貫して政権を握り続けた「保守」勢力が本音を吐くようできえあった。しかし、かつての自民党にはリベラルな志向性を持つ政治家がないわけではなかった。少なくとも憲法9条については、その平和主義を評価し不戦の誓いを全うしようとする認識があった。だからこそ、憲法9条は「集団的自衛権の行使」を禁じていると解釈されるべきという社会的合意があった。

憲法9条の精神は、戦争を絶対的に否定するだけでなく、当然にも戦争を二度と繰り返さないために、戦前のような国家体制をも破棄するという決意のもとに存在する。しかし、安倍政権の認識がそうであるように自民党の保守的勢力（かつての自民党政治家の2世、3世が多いのだが）はあの戦争を「自存自衛」のやむえない戦であったとし、現・日本国憲法は占領軍が押し付けたものにすぎないという。

つまり憲法をハナから敵視する姿勢はそもそもあの戦争が「国家的正義」であったという妄念にその起源をもっている。確かに第2次世界大戦の動機の一つは中国をはじめとするアジア諸国に対する覇権争いであったことは否定できない。米英諸国が日本を封じ込めようとした結果がああ戦争に至ったということもできるかもしれない。

だが、その議論は「強盗犯」が「放火犯」に「俺の方がましだろう。」言っているようなものだ。しかもこの強盗犯は軍民合わせて300万人もの犠牲を出しながら、最後には「一億総玉砕」を呼号し、国民に「死ね」と恫喝したのだ。

「集団的自衛権行使」をめぐる議論は、その歴史をどう振り返るかということでもある。「人が人として尊重される」「(当然ながら、平和な)地域社会で暮らしつづける」ことを基本的な価値観とする福祉の仕事にかかわる者の立場は明らかである。

かうんとらの夏

## 京都へ、そして渋谷ヒカリエに

パートナーシップ契約を結んでいる「マジエルカ」さんの斡旋で、今年の夏もあちこちにマスクマンたちが出没します。7月の上・下旬にJR京都のステーションビル内の伊勢丹京都店、またこの度新規開店した東急ハンズ京都（烏丸四条）のマジエルカイベントに参加し、8月7日からは8F「CUBE1・2」というスペースで、今春に続いて渋谷のヒカリエに出店します。

この夏、販売を開始したTシャツも好評で、遠く熊本からも注文が届いています。子ども用（150）とXLサイズは在庫が豊富にあります。他のサイズは品薄になってきました。というか、注文によってはお応えできないような状態です。買いそびれた人は、今なら間に合うかもしれませんのでご注文を急いでください。

なお、永田町の参議院議員会館内のセブンイレブンでクリアファイルの販売が決まりました。これも思わぬところからの注文で、とりあえず30冊納入しました。結構、じわじわキテるのかもしれません。



各事業所各位  
読者(職員)の皆さん

「昴の今日と明日に情報提供や寄稿を」

互いに他の事業所がどんなことに取り組んでいるのか、あるいはそれぞれの事業所や職員各自のトライや意気込み、ご意見など何でも構いません。

是非、このニューズレターをみんな交流の場にててください。

